

## 守屋孝彦所員を送る

齋藤義則 (当研究所長)

守屋孝彦先生は、社会学を専門分野として地域社会の構造と政治過程の分析から地域史を再構成されようとしてこられました。そして、多くの業績を上げられました。学会においては、日本社会学会、地域社会学会、東北社会学研究会等に所属され、多大の貢献をなされました。

その問題関心から、『地域開発と社会構造』(1980, 東大出版会), 『地域社会と政治文化』(1984, 有信堂), 『茨城県史』(1984, 近現代編, 茨城県) 水戸市史 (1993, 1995 下巻(1), (2), 水戸市), 『『釜石調査』とその後の釜石の社会変動』等の数多くの研究成果をあげられています。

文部省科学研究費による共同研究にも意欲的に取り組まれました。『現代日本の社会運動』, 『社会関係と政治意識に関する比較地域論的研究』, 『平和運動の思想と組織に関する政治社会学的研究』等において、従来の地域認識の枠組みを再構築する試みとしての意欲的な論文を執筆されています。

本研究所においても、約10年ほど前から地域システム研究部会を設置し、脱近代社会における地域の産業・経済のあり方、居住環境の問題、福祉の担い手と地域社会像、既存の政治・行政システムと新たな主体としてのNGO・NPO、ボランティアとの関係など、地域システムの再構築をめざした総合研究に取り組んでおります。

先生のご研究は、私どもの研究の先鞭になるものと位置づけ、先生の研究成果を十分ふまえたうえで、さらに推進する所存であります。

また先生は、学内行政においても教養部長を勤められ、教養部改組にご尽力なされました。

退官後の先生のますますのご研究の進展とご健勝を祈念しつつ、先生が本研究所に残されたご研究を引き継いでまいりますこととお誓いし、送る言葉に代えさせていただきます。